

高速道路の資産価値を高め、 西日本、そして世界の発展に寄与します

ネットワークとしての資産を磨き その価値を高めていきます

2010年6月29日開催の第5回定時株主総会、および引継ぎの取締役会におきまして、代表取締役会長兼社長に選任され就任致しました。

2005年10月に分割民営化され、公共性の高い高速道路事業を主たる事業とする民間会社となって以来、CSRの遂行をグループ理念とし、経営戦略の中核に位置づけて取り組んでまいりました。高速道路会社のこれからの使命とは、「ネットワークとしての高速道路資産を磨き、またサービスを向上させることによって資産の運用価値を高めていくことにある」と考えています。

NEXCO西日本グループがこれまで50年以上にわたって

培ってきた道路の設計、施工、保守点検、補修、料金収受、エリア運営といった技術やサービスの蓄積はまさに「宝の山」です。こうした「宝」である資産を生かして社会の課題解決に取り組み、社会を持続的発展へと導くことこそが当社グループのCSRであり、それらを「4つのつなぐ」(→P.7参照)という考えで整理し活動を展開していくことで、世界中に必要とされる企業として成長を続けます。

“4つのつなぐ”により CSR経営を推進していきます

安全・安心、サービスでつなぐ

安全・安心で快適な道路環境は、本業の基本となる部分であるとともにも最大のCSRです。局地的な大雨や集中豪雨など

による災害が近年増えていることを踏まえ、その対応を強化しています。その一つとして、小型気象レーダーネットワークの整備を進める気象会社との共同研究を開始し、急変する気象状況をリアルタイムで把握、初動対応の迅速化を目指しています。そのほかにも、構造物の老朽化への対策やドライバーの方の高齢化による事故軽減対策もGPSの技術開発などを活用して、早期の解決へ向けて取り組んでいます。社会の情勢の変化のスピードに合わせて、今後も予防保全技術には特に力を入れていきます。

地域社会の活力をつなぐ

高速道路のネットワークやサービスエリア・パーキングエリアなどを活用した地域活性化のためのお役立ちについては、もっと積極的にメッセージを発信し、働きかけるべきだと考えています。これまでもスマートインターやサービスエリアなどを通じた試みは行ってきましたが、どちらかというとニーズが先にあったという側面が強かったと思います。そこから一歩踏み出して、その地域の特性やブランドを活かすための独自の提案を私たちの側から積極的に行っていきます。

人と社会、世界をつなぐ

当社グループにはこれまで蓄積した高度な技術、ノウハウを活かすことができる優秀な人材(人財)がいます。将来的に活躍する舞台を、日本社会だけではなく世界に広げ、グループ全体の人材価値を高めていきます。アメリカなどの先進国に対しては赤外線を使った最新の点検技術などを提供する一方で、アフリカなどの途上国に対しては道路の必要性や管理・運営していくための人材育成の部分からというふうに、その地域の道路整備の段階やニーズ、そして地域の文化に合わせて展開していきます。

子どもたちに未来をつなぐ

さらに、現在の問題だけでなく未来の子どもたちが笑顔になれる社会のためには、解決すべき問題が山積みです。地球環境問題についても、企業として負荷を与えている以上、高速道路のあらゆる施設を高度化しながら、あらゆるチャンスを

とらえてやっていきたいという方針です。例えば再生可能エネルギー分野では、2010年に開通した第二京阪道路の遮音壁には太陽光発電パネルを埋め込む試みも始めています。創造的な技術を作り出す土壌づくりをしながら、未来社会がどうあるべきかを発想し、今までにない技術革新の芽を伸ばして、新たな価値創造にもつなげていきます。

一人ひとりが主体性、進取性を持って 取り組むことが何よりも大切

こうした取り組みを進める際に大切なのは、グループ全体で一体感を持って行うことです。道路のネットワークは全体がつながって初めて1つの価値となり、同様に新しいネットワークを創造するには、まずは人のネットワークが必要です。グループの従業員一人ひとりが主体性を持ち、これまでの常識という殻を打ち破るような発想や取り組みを期待しています。トップダウンや少数の飛び抜けた能力を持った人材に頼るのではなく、すべての従業員が個性や能力を発揮し、全体として機能する方が強い企業集団となることができるからです。ただし、急に変わることは難しいかもしれませんから、まずは現場同士のコミュニケーションを大切に、互いに刺激しあいながら知恵をつないでいくことから始めていきます。

未来を見通したときに、NEXCO西日本グループの姿としてイメージしているのは、自らの資産を磨き、道路以外の分野に対してもさまざまな知恵やノウハウ、技術を提供し続けていける強い組織となることであり、今後も日本、そして世界の発展に大きく貢献するために、さまざまな工夫を重ねていきたいと思えます。

西日本高速道路株式会社
代表取締役会長兼社長

西村英俊

